

聞くは一時の恥
聞かぬは一生の恥

井手町保健医療課長

小川淳一氏



高校卒業後、自動車販売会社に3年9か月、国鉄に11年間勤めた後、地元の井手町役場の職員となった。「これまで多くの課を経験し、今春からの保健医療課長も二度目の務めなんです」。町役場の行政を知り尽くす58歳である。

中学、高校時代は野球部のキャプテン。投手としてならした。井手町に戻ってから新たに出会ったのがバレーボールだ。「家内が高校までバレーをやっていたので、地域の人と顔なじみになってもらいたいと地元チームに連れていったのがきっかけなんです」。

バレーから学んだ

いつの間にか「戦況が次々変化する中で、瞬間、瞬間の判断を求められるバレーの魅力にとりつかれてしまった」と話す。忙しい仕事の合間を縫い、成人男子、小、中学校の女子バレーの指導に長年力を注いだ後、6年前からは家庭婦人バレーボールの監督を務めている。

バレーを通して学んだことがあるという。「自分の思いを伝えるためには、相手の立場にたちながら、しかもそれぞれの性格、適性を見極め、物の言い方や言葉を変える必要があるということです。この経験は役場の仕事にも役立っています」

バレーで体を動かすほか、土日には早朝から木津川沿いのウォーキングを欠かさない。食事についても花粉症対策として肉中心の食生活を見直したのをきっかけに、現在は味付けも塩分控え目を心掛けているとか。



「京都で一番早くさくらが咲くまちプロジェクト・時代絵巻行列」にて
(写真右より、小川課長、井手町商工会商店街PRキャラクター・いでたん、井手町名譽応援隊長・月亭太遊さん)

今回、本会で会議後の取材だったが、エルボーパッチ付きのジャケツトをさりげなく着こなす姿がとてもスマートだ。「家内と二人でショッピングに行くのが楽しみなんです。いい服などを見たら『着たいなあ』と思うだけでも、気が若くなるじゃないですか」。なるほど、オシヤレも健康法の一つである。

知ったかぶりはしない

「社会に出てからの勉強こそが大事」。これを信条にしてきた。今でも字がうまくなりたいと願い、古新聞を活用し筆ペンなどで字の練習に取り組んでいる。もう一つ信条がある。「聞くは一時の恥、聞かぬは一生の恥」。「国保連合会にもよく問い合わせをしますが、知ったかぶりをせず、分からないことは素直に聞く。これが大事ではないですか」。この欄のタイトルは自筆で書いてもらっているが、今回はこの言葉をお願いした。